

*当シンポジウムは最初 4 月 19 日の予定でしたが、コロナウイルスの広がり、急遽 6 月 21 日に変更されました。

定説への叛乱 in 岡山 (吉備)

岡山・東京歴史研究交流初シンポジウム開催

◎古代日本の中心は<畿内>という定説に叛乱する：

古代日本の本当の中心は畿内ではなく岡山(吉備国)であって、一部記紀は岡山と奈良の地名をすり替えている。

◎岡山の定説にも叛乱する：鬼の城は古代山城ではなく天皇の宮<天宮>。吉備津神社の伝承、温羅伝承、これらは岡山の土着伝承ではなく、捏造された作為の伝承ではないのか。

開催日時 6 月 21 日 (日) (10:00 開場)

開始 10:15 ~ 16:45 終了

場所：岡山シティミュージアム (4 階講義室)

JR 岡山駅東西連絡通路徒歩 2~3 分 TEL 086-898-3000

定員：80 名 (先着順、満員になり次第締め切り)

会費：一般 1900 円、ご支援賛助の方 2200 円

(女性の方・80 歳以上の方・学生の方 割引します)

主催：同交流シンポジウム実行委員会

(呼びかけ人 平山牧人東京吉備文献研究会代表)

共催：歴研(全国歴史研究会)、後援：(岡山)岡山歴史研究会、秦歴史保存協議会、本隆寺 (東京)先古代史の会、日本の歴史と文化を楽しむ会、岩崎純一学術研究所(IJAI)

ご協力の皆さん(順不同)

代表：古川克行氏(岡山桃太郎の会事務局長)、岡田 博氏(前古代吉備文化財センター)、出宮徳尚氏(前岡山市文化財課課長)、佐藤光範氏(岡山磐座研究家)、高木寛治氏(総社市磐座研究家)、合田憲隆氏(本隆寺住職)、黒田晋、知恵(岡山市郷土史家)、前田豊氏(先古代史の会会長)、香川重善氏(善通寺文化財保護協会会員)、品川清氏(大阪吉備歴史研究家)、相原正博氏(民俗学研究者)、松川忠嗣氏(日本桃太郎の会三代目会長)、岩崎純一氏(吉備巫女神道研究家)

シンポジウム交流会事務局：〒108-0023 東京都港区芝浦 4-8-12-110

お問い合わせ：(FAX) 03-3454-7753 (携帯) 080-9654-2272 平山方

日本と岡山の定説へ叛乱する講師たち

●倭の5・6王代と吉備の定説への叛乱 <吉備の叛乱伝承>

出宮徳尚先生 岡山城天守閣展示物専門員、古代吉備国を語る会会長、元岡山市教育委員会文化財専門監

倭国の形成期の吉備はヤマト中央政権に対峙した地方政権と評価されているが、日本書紀では、この時代の前半に中央政権で重責を担っている。前半期の雄略期には、大王の反抗や王権篡奪の叛乱を起こしている。反乱の後には吉備は中央政権から排除されてしまうが、前半期の大王の系統の終焉と軌を一にしている。

<岡山の磐座と秦氏の定説への叛乱> (三者共通)

●岡山の磐座と秦氏
佐藤光範先生 (30年にわたって月一回磐座を会員と見て歩いた。星と太陽の会主宰。)

秦氏と云えば「秦河勝」からであるが、ハタという地名が岡山にはある。その河勝(川勝)の伝承を調べても、誕生地・誕生日は不明であるが、彼の創建した「広隆寺」と関係ありとする伝承が、吉備の秦原廃寺に伝わる。秦原廃寺は伊予部の磐座の真南に創建された。磐座祭祀宗教から仏教にと変遷する時期ではなかったのか。岡山には根っ子から土器の出土している磐座は3か所だけだが、その一つが伊予部山の磐座です。

●岡山の磐座と秦氏の素性

前田 豊氏(東京)
(先古代史の会会長、イワクラ学会副会長、全邪馬連理事、著書「徐福と日本神話の神々」)等。

総社市のイワクラや造山古墳などは秦氏と関係すると論じられているが、その秦氏は秦始皇帝により蓬莱国に派遣された徐福一行に関係するとの仮説を提言する。

●総社市の磐座と秦氏

高木寛治氏

(県職員として公衆衛生に従事。退職後精神科医十一年目。石と人との関係研究中。)

佐藤光範氏の導きで、隠れた磐座文化を知り、秦地区を始め総社市内の磐座を総社の地域誌「然」に二十回近く連載してきたのでその概要について報告する。

●鬼の城定説への叛乱 (鬼の城<天宮>論)

平山牧人(呼びかけ人) (東京吉備文献研究会代表、先古代史の会副会長)

- ① 鬼の城<天宮>論と大廻り小廻り(両槻論) ●齊明天皇二年条の田身嶺と香山について ●須弥山と天皇号と鬼の城について ●庚申山(本隆寺)で発見された<天宮>磐座と日隆上人の謎 ●備中秦氏と鬼の城
- ② 鬼の城の企画は高向玄理である ●高向玄理が齊明天皇の元夫高向王。
●高向玄理は秦氏か。 ●中国鬼城<陶弘景>は玄理が将来した。

6月21日 タイムスケジュール

総合司会 前田 豊氏

10:00 開場	15:50~15:55 休憩
10:15 開会宣言 挨拶 古川克行氏	15:55 参加者自由発言
10:20 スケジュール説明	16:45 閉会宣言 古川克行氏
10:25 佐藤光範先生 講演	16:50 第二回目シンポジウム案内
11:15 休憩	17:15 二次会(場所未定)
11:20 前田 豊氏 講演	司会 高木寛治氏
11:45 高木寛治氏 講演	(自己紹介、名刺交換等)
12:10 昼休み	19:15 散会
13:00 平山牧人 講演①	
14:00 講演②	
14:50 休憩	
15:00 出宮徳尚先生 講演	

<定説への叛乱について—挨拶に代えて>

呼びかけ人 平山牧人

2020年6月21日(吉日)

本日、岡山・東京定説への叛乱シンポジウム開催の日を迎えることができました。ここに至るまでの道筋は一朝一夕ではありませんでした。ここ15年前から東京では小規模ですが数十回にわたり鬼の城の謎の研究を中心に岡山(吉備)研究を積み重ねてきました。当時山陽放送の部長だった古川克行氏はその時から莫大な量の古代吉備の資料を送ってくれ、また最近はお出宮徳尚先生が研究資料を提供してくれました。その間、岡山郷土史家の黒田夫妻、古代吉備文化財センターの岡田博氏他色々な岡山の方から長年私共の研究へのご協力を賜りました。岡山の方々と連携して研究する中で、記紀・万葉集は、岡山(吉備)が古代日本の中央であったことを徹底して隠していたこと。そしてその偽造の延長で岡山(吉備)の定説を作り上げ、古代岡山(吉備)の真実を歪め歪曲していたということです。東京の私共と岡山在住の研究家の皆さんの協力が結合し、古代日本で岡山が中央ではなかったかを全国へ発信できることはこの上ない喜びです。

定説への叛乱(概要まとめ)

項目	これまでの定説	定説に叛乱した見解
吉備津神社の祭神について	主祭神吉備津彦と吉備の土着の王族	日本最大の神社の祭神が皇子で天皇ではないのはおかしい。応神天皇(造山古墳被葬者)も、また仁徳天皇(御友別)も子孫、倭の5・6王も祀られているのでは。
御友別	吉備国の首長	仁徳天皇と思われる。応神天皇を祀った主人公は御友別だろう、彼の子孫が倭の5・6王である。
造山古墳の被葬者	吉備の王	応神天皇と思われる。記は埋葬地を“川内の恵賀の室伏の岡”と河内のように嘘を記す。
温羅伝承	ヤマトの侵攻に対して抵抗した土着岡山人の反抗を妖怪温羅に形象化した。	岡山の土着信仰は鬼であって妖怪ではない。この話は加夜氏栄西上人によって創作されたものだ。加夜氏は元々熊襲隼人ではないのか。
鬼の城	古代山城で、百済系の戦争用山城。時代は白村江の戦いで敗北した国際関係の緊張時に築造された。文献資料は何故かない。	古代山城ではなく、日本書紀斉明天皇2年条の天宮である。企画したのは斉明天皇の元夫の高向玄理である。陶弘景が理論化した中国鬼城(四川省重慶市豊都)をモデルにしている。築造したのは総社の秦氏一族か。
万葉集、香山の歌等	無関係	万葉集に鬼の城関係の歌は5首以上ある。2番の香山とは鬼の城の歌か。
大廻り、小廻り	古代山城	鬼の城(天宮)と同じく紀斉明天皇2年条の両槻宮である。
秦原廃寺	不明	秦河勝によって創建された?